

高信頼性ICタグ

スイカとICタグ

(株)R&Vの宇佐美光雄が電子乗車券の実証実験を行っていたのが1998年でした。もう17年前のことでございます。そのころはまだICタグとかICカードというのはあまり知られていない時代でした。

当時はヨーロッパや香港で電子乗車券やテレホンカードにICカードが使われていました。日本ではやっとスキー場のチケットにかなり普及していましたが、電子乗車券という概念はほとんどなかったように思います。

なかなか普及しないのは半導体のコストが馬鹿にならず、それでもユーザへの利便性だけで普及するものだろうかという意見とか、磁気カードの低コスト性などがまだ強かった時代でした。今のようにスイカがなければ不便だなと感じる時代になるためにはまだまだ時間と技術とシステムが必要な時代でした。

これからは「光り玉」のように電池寿命を保ちながら無線とセンサが結びついたデバイスや装置がプラントにどんどん普及していくと思います。やがて今のようにスイカがなければ不便だという時代が「光り玉」でもたくさん起こるのではないかと考えています。